

# 枕崎市総合振興計画審議会・地方創生総合戦略審議会 令和7年度 第3回審議会 議事要旨

## 開催概要

日 時：令和7年12月24日（水）15:00～17:00

場 所：枕崎市市民会館 第5会議室

出席者：14名（出席13名、代理出席1名）/定数20名 会議成立

配布資料：委員名簿（出席者名簿）、資料1、第2回審議会議事録

## 主な議事内容

### 1 事務局長あいさつ

これまで行ってきた市民のアンケートの集約、市役所庁内での協議、本審議会における議論を踏まえ計画全体をまとめた。テキスト版であるが、最終的にはデザイン版となる。計画策定の過程で重要な節目である。委員の皆様からの忌憚のないご意見を賜りたい。

### 2 会長及び副会長の選出

下記のとおり会長を選出し、副会長が会長となったため副会長1名を新たに選出した。

会長：福島委員

副会長：中村委員

（報告）委員の出席が過半数のため、審議会の成立を報告

### 3 審議事項・質疑応答

#### （1）枕崎市総合振興計画及び枕崎市地方創生総合戦略について【資料1】

序論から基本構想まで

（委員） 計画期間が10年間と長いため、基本計画が前期・後期と計画されているとおり、今後も見直しが必要である。

（委員） 枕崎市は半島の端にあり条件不利地であるが、活性化に向けた手法があると思う。

（委員） 鹿児島県内の自治体の住みやすさランキングの報道があった。本市はどの位置にあるのか。

（事務局） 民間事業者の調査によるランキングのことと思う。本市の評価については承知していない。

（委員） 20代から40代女性の近隣市への転出が多いが、その理由は何か。

(事務局) 20代から40代の女性の移動に関しては、結婚を機に本市よりも、近隣の自治体の方が暮らしやすい要因があって、転出するといった傾向があるのでないかというふうに考えております。10代から20代の男女は、東京、福岡市、鹿児島市などの都市部へ流出している。

(委員) 転出した方が戻ってきやすいまちづくりが必要である。

(事務局) ご指摘のとおりと考える。若い女性が本市に帰ってくるためには、就業環境や子育て環境を整えなければならない。本市は産業のまちであり、産業競争力の向上により若い世代の安定した収入につなげたい。若い世代の安定した収入が、少子化対策になると考えられる。

(委員) 外国籍住民はどれくらい住んでいるか。最新のデータを示して欲しい。

(事務局) 第2回審議会の資料で示したデータが最新のものである。

(委員) 住民が超高齢化しており、自治公民館の班長の担い手に困っている公民館が多い。地域内的人口異動の情報が提供される自治体もあると聞くが、本市はそのような情報の提供がないため、若い世代の転入を把握できない。このことが自治公民館の組織の弱体化につながっている。自治公民館も消滅する可能性がある。本計画では抽象論が多いが、公民館への支援などの具体策が必要である。

(事務局) 本計画においても自治公民館への支援は検討されており、具体策の検討も進めている。

(委員) 安心して子どもを産み育てられる環境として、小児科は重要な要素である。民間小児科の閉院が予定され、市立病院の小児科診療が拡充されると聞いている。診療日数はどの程度確保されるのか。

(事務局) 日曜、祝日を含めて、一週間に5日程度の診療日を予定しているとのことである。

## 基本計画／基本目標1 産業

(委員) 火之神地域で外貨を稼げるようになって欲しい。地域外の方にお金を使ってもらい、市民を大切にする視点が欲しい。移住者獲得も大切だが、枕崎に住んでいる若者に注力すべきであるし、市民を市外に流出させないための取組が必要だと思う。チャレンジショップの対象を拡大することで、まちが活性化すると思う。

(委員) 基本構想に、新しいことへチャレンジして地域の可能性を広げるとある。産業振興において、新しいことへのチャレンジを施策に組み込んでいただきたい。例えば、今回の計画には、太陽光発電や風力発電、GX（グリーントラン

フォーメーション）の記載が少ない。国もデータセンターなどを推し進めている。

企業経営者から、新しいことに取組まなかったことへの反省や後悔の声も聞く。

枕崎にある資源を活用した取り組み、それにプラス新しい取り組みというのをぜひ考えていただきたい。

（委 員） 移住支援策の充実が、項目として設けられたことは評価する。施策に予算をかけることも必要であるし、経済面以外の具体的な支援も考える必要がある。結婚する方への支援、子どもを生める環境整備の施策を聞きたい。

（事務局） 移住施策は、移住のきっかけづくりと考えている。情報発信から移住支援策、関係人口の創出を定住につなげていく。そのためには総合力が問われる。交流人口、関係人口、移住検討など各段階に応じて、施策を講じていく。

移住希望者や学生等が一定期間滞在できる環境づくりを検討しており、本計画の期間内に形を作りたい。

#### 基本計画／基本目標2 子育て・教育文化

（委 員） 近隣市の施策が地元紙に掲載されたことがあるが、この例のようにいろいろな手段で広報をする必要がある。施策を実施しても、必要な人に情報を届けることも大事である。

（委 員） 市内の学校の校則を見ると、男女で髪型が指定されるなど前時代的な校則が残っている。ジェンダーギャップを解消する観点からも、教育の現場で見直していただきたい。

#### 基本計画／基本目標3 健康・福祉

質疑なし

#### 基本計画の基本目標4 生活環境・都市基盤

（委 員） 想定外の災害が頻発しているため、防災インフラの整備の強化が急がれる。強化することにより「災害に強い自治体」として人口増が図れるのではないか。

（委 員） 夜のまちの明るさを保ってほしい。

#### 基本計画／基本目標を達成するための基盤

（委 員） 近隣市だからと線を引くのではなく、連携すべきところは一緒にすべきである。

(委 員) 生活圏が広域化しており、災害時には近隣市と連携して交通規制等の情報発信の強化をお願いする。広域的な視点での情報連携が進むことで、災害時の混乱軽減や安全確保につながる。

(委 員) AI に強い人材の育成は、これからも必要である。そのほか、地元出身以外の職員が増えている。その職員が現在の枕崎市をどう思っているのか知りたい。

#### 4 意見交換

##### 基本構想から総合戦略まで

(委 員) 総合振興計画に地方創生総合戦略が統合されている。P5 の統合の説明の中に総合戦略を総合振興計画の重点プロジェクトに位置付ける旨の説明を入れたほうが良いのではないか。

(委 員) 総合戦略には、KPI が設定されているが、総合振興計画には目標指標は設定しないのか。また、現実的に届く目標より少し高い目標の設定が望ましい。

(事務局) 総合振興計画の各基本目標には設定しないが、総合指標として「幸福度」と「生活満足度」の現在値を向上させることとしている。基本計画の重点プロジェクトである総合戦略に KPI を設定する形になる。

(委 員) カタカナ語など一般的でない言葉が散見される。平易な言葉を使っていただきたい。また、用語集の作成もお願いする。

(事務局) 平易な言葉遣いとしたい。用語集は作成する。

(委 員) 今回審議会を開催しているが、市民に伝わるように新聞等での報道もお願いする。

#### 5 その他

- ・質疑時間が十分に確保できなかったことから、出席していただいた委員の皆様でご意見等がある場合は、書面にて意見を伺いたい。
- ・パブリックコメントを令和7年12月26日から令和8年1月28日の期間で実施する。
- ・本審議会としての答申（案）作成は、会長と事務局で対応する。改めて会長から委員の皆さんへ答申（案）をお諮りする。

#### 6 閉会